

# 生乳の安定生産

～乳検成績を活用した飼養管理改善～

令和 5年度

【函館市乳検実施酪農家3戸】

(地域第2係・課題番号5)

## 1 課題の背景

函館市内の酪農家は年々減少し、令和4年度末で5戸となっている。それに伴い出荷乳量も減少している。地域の生乳生産維持のためには酪農の経営安定が必要であり、そのために良質自給粗飼料の確保は重要である。さらに、毎月の乳検成績を生産上の課題把握と改善に生かすため、「牛群検定WebシステムDL」を活用しリアルタイムに情報共有しながら改善を支援する。

## 2 活動内容

※函館市内の乳検実施酪農家3戸のうち1戸をモデル農家として選定。

【モデル農家の課題】

- ①サイレージ用とうもろこし収量がやや低い  
5,907kg/10a (本所平均6,340kg/10a)
- ②分娩後初回検定時のBHB (ケトン体)が高い→潜在性ケトosisの疑い  
初回検定高BHB牛割合 23% (全道平均 9%) 令和5年1月検定時

### (1) 自給粗飼料確保

- ・前年のサイレージ用とうもろこし品種比較試験結果から、高収量が見込める品種を選定し令和5年度に栽培。土壌分析を実施し施肥設計。

### (2) 乳検データの把握・共有

- ・「牛群検定WebシステムDL」を活用して、乳検データをリアルタイムで把握。
- ・共有したデータを活用し、定期巡回で飼養管理上の課題と改善策について生産者と随時検討。成果を確認。
- ・主な改善点は①カビ毒吸着剤の給与、②乾乳期の飼料増給、③分娩後の飼料増給。

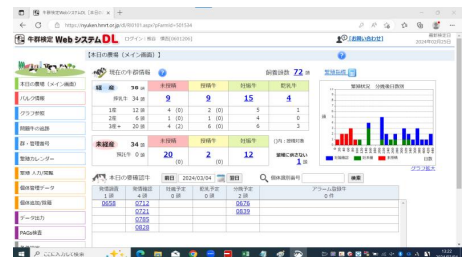


写真1 牛群検定WebシステムDLのトップ画面

## 3 活動成果

### (1) コーン品種変更

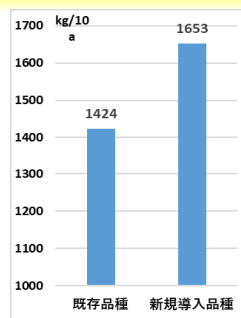
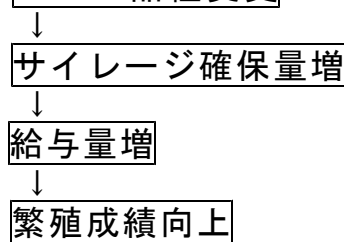


図1 サイレージ用とうもろこし収量の比較

### (2) DLの活用

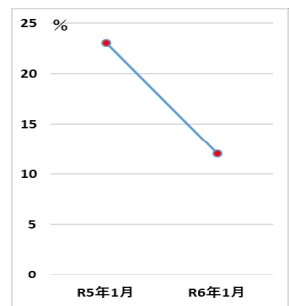
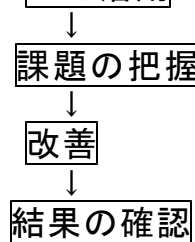


図2 初回検定高BHB牛割合の推移

- ・既利用品種に比べ推定TDN収量は16%の増収となった(図1)。
- ・サイレージ確保量が増えた分、給与量を増やすことによって繁殖成績の向上が見られた。

- ・令和5年夏期の異常高温の影響は避けられず、乳量は低下したが、乳検データを見ながら分娩前後の飼料給与の改善を続けた結果、高BHB牛割合は23%から11%(令和6年1月検定時)まで減少した(図2)。

## 4 今後に向けて

モデル農家での取り組みを、市内の他の酪農家に対しても波及する。